東邦学園広報

Toho Campus
東邦キャンパス

愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

vol.137
2023年（令和５年）１月 発行

発行　学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052（782）1241　FAX 052（781）0931
HP 東邦学園　愛知東邦大学　東邦高等学校　検索

特集

東邦学園100周年

「WE ARE TOHO はばたき　新時代へ」掲げ記念事業スタート

「東邦サッカー」が全国舞台を駆けた

2022年９月21日に行われた高校体育祭にて、１年生集団演技の人文字「100」が人工芝に映えました。

目次

年頭所感

『君たちはどう生きるか』を考える

学園理事長
榊　直樹

新年おめでとうございます。2023年は東邦学園にとって、創始となる東邦商業学校（５年制）の開学から満100年周年に当たります。高校100年、大学も短大時代から数えれば58年の歴史は、先輩教職員のご努力、そして多くの卒業生が社会の一員として立派に歩まれたからでしょう。

この記念すべき年に目を転じると、コロナ禍がなお続く中、世界は「プーチンによるウクライナ侵攻」によって混乱し、不安と相互不信、分断が深まっています。そんな時だからこそ、私たちは新たな100年へ向けて、大切にしたい価値観について考えたいと思います。

一冊の本を紹介します。1937年、子ども向けの「日本少国民文庫」最終巻として書かれた吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』です。日本軍の中国侵略が苛烈となり、国内では統制色が強まって、自由な表現と発言がますます抑えられていく時代です。吉野氏が師と仰いだ作家・山本有三が「少年少女こそ次の時代を背負うべき大切な人たちである。この人々にこそ、まだ希望はある。偏狭な国粋主義や反動的な思想を超えた、自由で豊かな文化があること、人類の進歩の信念をいまのうちに養っておかなければならない」として、企画しました。

主人公の中学生・コペル君こと本田純一君が、叔父や友人とのやり取りを通じて成長していく話です。自分は無数に多くの人の働きで生きていられると理解し、貧しい人々を決して見下げてはならない、道義心を失わない、そして先輩から殴られる目の前の同級生を救えなかった意気地なさを自ら苛（さいな）んだ末に、勇気をもって謝れば、人から信頼され心豊かな気持ちになれることなどが、描かれています。

「倫理を説くため」に書かれており、お説教じみてもいますが、実は今年大きな話題を呼びそうな宮崎駿さんの作品名は、この『君たちはどう生きるか』なのです。必ずしも原作通りではないようですが、一旦表明した引退を撤回してまで世にメッセージを発したいと考えた時、この本を根底に据えた気持ちが分かるように感じます。

価値観が人の数だけ無数にあると誤解しがちな時代、漂流から救ってくれる一冊です。

建学の精神に立ち返って

東邦高等学校校長
藤本　紀子

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃より東邦高等学校の教育にご理解・ご協力を賜り、誠に有難うございます。本年も皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。

東邦商業学校創設から100周年という大きな節目を迎える東邦学園・東邦高等学校にとって、2023年の幕開けは誠に喜ばしく、学校長として感に堪えません。

私立学校は、設立に際しての創設者の思いや理想を「建学の精神」として掲げ、その精神の下で教育活動を営んでいます。

下出民義先生は、東邦高等学校の前身である東邦商業学校設立５年後の1928年、始業式の訓示で当時の生徒に対して以下のように東邦教育の理想を述べています。

「小生は過去幾多の苦闘の後を憶ひ殊に複雑にして困難なる現代の社会生活に立って、勇ましく健闘を続け得るには、殊に青年特有の果敢なる精神を失はず、又一面に於て将来社会に於ける各種の共同生活の中心となり、真に信頼し得る人格を造るといふ点に重きを置きたい。従って現在の知識偏重の教育にあきたらず、徳性の陶冶、人格の養成に重点をおき、智徳共に進むといふ努力をしたいものである。」（東邦学園50年史よ

次の100年をめざして羽ばたく愛知東邦大学

愛知東邦大学学長
鵜飼　裕之

皆さま、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中に皆さまから賜りました愛知東邦大学の教育研究活動へのご支援に対して厚くお礼申し上げます。本年も、本学がめざす目標に向かって一歩一歩確実に前進してまいります。

さて、東邦学園は、本年、創立100周年を迎えます。学園創設者である下出民義先生が活躍された100年前は、石炭と水力を一次エネルギー源とする電気エネルギーの誕生と大量生産の時代を迎えた第二次産業革命と呼ばれた産業社会の一大転換期を迎えていました。その一方で、第一次世界大戦の勃発やスペインインフルエンザのパンデミックによって多くの人々の命が失われた時代でもありました。その様な動乱の時代の中で東邦商業学校は誕生しました。

それから100年後の現在、世界はICTの急速な進展によってグローバル化、デジタル化、ソーシャル化が加速し、私たちの生活様式は大きく変わろうとしています。自動車産業において100年に一度の大変革期と言われるように、産業社会はAI、IoT、ロボットなどを駆使した第四次産業革命を迎えています。そして同時に、私たちは、再び新型コロナウイルスのパンデミックのただ中にあります。さらには、ロシアのウクライナ侵攻によるダメージは世界中に広がっています。この様なときに私たちは生きています。

100年前の時代の転換点にあって、下出先生が「現代社会の求むる着実なる実業青年を養成し以て社会的報恩の一端に資する希望の下に創立」するという強い意思でめざされた人材育成ビジョンが「真に信頼して事を任せうる人格の育成」です。「個性を磨き、地域・世界へと繋がる共感力を育む人材育成の拠点形成」をめざす大学改革構想“AICHI-TOHO NEXT CHALLENGE 2030”の下、次世代を見据えた新たな専門分野を創成する学部・学科の再編成、学園一体となって進めるDX推進とインナーブランディング、Open & Closedな次世代クラスルームを備えた新キャンパス建設構想などを着実に実現してまいります。

創立から100年後の今、再び社会が大きく変わる時代の転換点にあって予測が困難な時代を迎えている今だからこそ、愛知東邦大学は、学園創立の精神を受け継ぐという確固たる矜持をもって、次の100年をめざして進化してまいります。今後とも引き続き、皆さまのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

り)。この精神を後の校長下出義雄先生は「儁敏な才子よりも着実にして円満な常識あり気力ある人物を作り上げたいといふのが私共の不断の念願」(東邦学園50年史より)と換言しています。

学園創設から100年経った今、世界は大きく変わろうとしています。「世界がいかに持続可能な発展をするか」という地球規模の、人類がいまだかつて経験したことのない「答えのない課題」を私たちは共有し、共に解決に向けて歩んでいかねばなりません。異文化・他者とのやりとりの中で最適な答えを見つけ出す作業は、「知識」だけでなし得るものではないでしょう。解決への情熱、他者への想像力と交渉力、そして時として十分な体力を必要とするはずです。100年経った今、東邦学園の建学の精神は、色あせるどころかますます普遍的な輝きを増しています。

「智徳共に進む」ことの大切さ、「信頼される人格」として現代人に必要なものは何か…100周年の節目を迎え、再び建学の精神をかみしめる年の初めです。

本年も建学の精神の下、教職員一同より良い教育活動に向けて邁進する所存です。どうぞ東邦高等学校へのご支援をよろしくお願いいたします。

特集1 「WE ARE TOHO はばたき 新時代へ」掲げ記念事業スタート

理事　佐々木　泰裕

学園創立100周年が近づく中、様々な事業が始まり、また諸準備が本格化してきました。

学園内には「WE ARE TOHO　はばたき　新時代へ－東邦学園100周年」のブランドシグネチャーも各所に掲示されました。創立100周年の機運醸成に繋げられればと期待しています。

前号でご紹介した「100周年公式活動特別支援」では、大学経営学部の学生による松坂屋名古屋店での知育玩具「ジナゾル」体験展示会を10月に、後でご紹介します大学地域創造研究所が100周年記念スポーツセミナーを11月に開催し、ブランドシグネチャーも案内や会場に掲示されました。

新年１月５日に愛知県芸術劇場大ホールでの高校マーチングバンド部第６回定期演奏会に続き、３月５日に名東文化小劇場での大学吹奏楽団第13回定期演奏会も予定されています。また２月18日には高校で100周年記念高校国際探究コース研究発表会も予定されています。

いずれも、100周年活動としての学園内外への広報発信や資金面での援助、そして100周年ブランドシグネチャー掲示をサポートしています。

この活動は2023年度も継続して実施し、さらなる盛り上がりを企図して追加申込を受け付けております。

従来から行っているものを100周年記念として一層の盛り上げを図る高校ダンス部公演や学童野球大会、それに男子・女子それぞれのサッカーイベント等もあれば、それに新たな企画としてのこどもチャレンジキャンプなど、様々な企画が寄せられており、非常に楽しみです。

一方で、大規模なイベントも、実現に向けての諸準備が本格化しています。

記念式典は12月９日に決まりました。現在、内容の詰めを行っています。記念誌の発行では、編集作業を本格化させつつ、各方面の方々へご寄稿をお願いしました。ご協力頂いた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。「東邦学園百年史」に加え、これまで学園ホームページで連載してきた「語り継ぐ東邦学園史」も、書籍化に向けての準備が大詰めを迎えております。また、過去から現在、そして未来を見据えた東邦学園の思想を、マスメディアを活用して広く世に伝え、共感の獲得を目指す企画も進行中です。更に高校美術科30周年記念と併せて７月11日に記念講演会、11月14～19日に記念展示会の準備も進行中です。

話題性を高め、東邦学園のプレゼンスを高めるための諸企画も、着々と進んでおります。しかるべき時期が来れば別途正式にご紹介致しますが、東邦学園ブランドの重要な構成要素である野球やマーチングバンドによるイベントを鋭意企画中です。ご期待ください。

年末の部活動の活躍も、100周年に花を添えてくれているようです。高校硬式野球部は東海大会で優勝し春のセンバツ甲子園への出場をほぼ確実とし、高校サッカー部も全国選手権大会に出場しました。

大学でも硬式野球部が初の１部リーグ昇格、来季も引き続き１部での活躍が期待できます。女子サッカー部は５年ぶりに皇后杯とインカレの同時全国大会出場、男子サッカー部は惜しくも２部３位と、１部昇格とはなりませんでしたが着実に力をつけています。

ここには書き切れませんが、他の部活動も、そしてもちろん様々な正課・課外活動においても、次の100年に向かってますますの活躍を期待しています。

東邦学園は、学生・生徒の志を支援しつつ、学園自らも新時代へはばたかんと、様々な取り組みを今後も実施してまいります。

100周年事業のご寄付を頂戴した皆様に厚く御礼申し上げますとともに、広く皆様への更なるご理解とご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

地域創造研究所とスポーツ・文化振興局が百周年記念スポーツセミナー開催

愛知東邦大学地域創造研究所では11月23日、「小中学生の『あるべき』スポーツ環境を考える」と題して、対面とオンラインでのセミナーを開催しました。

高校　オーバルランチルームでの野球編セミナー

スポーツ・文化振興局では、学園のブランディングの一環として、地域スポーツクラブをはじめとする活動の他、強化指定クラブ支援も行っています。その中で、将来の生徒・学生候補であるスポーツを行っている小中学生の、保護者・指導者の方々へ情報発信を行う機会を提供することで、学園のファンづくりに繋げられたらとの思いで、企画を行っておりました。幸い、新たな百年事務局の公式活動支援をいただけたばかりでなく、大学地域創造研究所のご理解・ご協力を頂き、研究所での100周年記念セミナーとして開催頂く運びとなりました。

セミナー会場は、東邦高校のオーバルランチルームで野球編、愛知東邦大学のLCホールでサッカー編と、２か所に分かれて開催されました。一つ目のセッションでは、「小中学生のスポーツにおけるケガの予防」として、高校硬式野球部チームドクターの岩堀裕介医師、高校サッカー部チームドクターの小田智之医師から各会場でそれぞれご講演をいただきました。

続けてのセッションでは、オンライン参加の上條憲二地域創造研究所長からのあいさつの後、「スポーツ活動を行う小中学生の栄養学」として、帝京大学の虎石真弥先生からLCホールでご講演いただき、高校の会場へはオンライン中継という形を取りました。質疑応答では、高校の会場からの質問にLCホールでお答えいただくという場面もありました。

そして三つ目の「変わるスポーツ、変わるコーチング」として、これもLCホールから、東邦学園硬式野球部総監督の森田泰弘氏、同サッカー部総監督の石渡靖之人間健康学部教授、東邦高校サッカー部コーチの道家歩氏が登壇し、舩木恵一副学長の司会のもと、様々な切り口や経験から、これからのスポーツ環境に関する意見を発表されました。最後の榊直樹理事長から皆様へのあいさつまで２時間半と、中身の濃いセミナーとなりました。

２か所で同時に対面とオンラインでの開催、そして途中からは、１か所から他会場を含めたオンライン配信と、技術的なハードルの高い開催でしたが、株式会社イープロの技術スタッフや大学DX推進室の協力で、大きなトラブルもなく無事終了しました。

参加者は、小中学生の野球・サッカーの指導者や保護者の方々を中心に、対面・オンライン併せて200人を超える盛況でした。会場でも「とても勉強になった」といった声を聴くことができました。

大学　ＬＣホールでのサッカー編セミナー

スポーツ・文化振興局は、２月にも地域創造研究所と連携して、同じような形での情報発信を予定しています。

地域の子どもや親御さんがスポーツに触れ、楽しめる機会を提供するという取り組みを2022年度に行ってきました。幸いにもスポーツ庁からの委託事業「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」の採択を頂くことができました。

その振り返りを行い、今後地域でのスポーツはどのようにあることが望ましいか、大学はそこへどのように貢献できるかといった話題での開催とする予定です。ご期待ください。

特集2 「東邦サッカー」が全国舞台を駆けた

学園創立100周年を前に2022年、「東邦サッカー」が全国舞台を駆け抜けました。東邦高校サッカー部は第101回全国高校サッカー選手権大会に４年ぶり７回目の出場を、愛知東邦大学女子サッカー部は第31回全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）に３年ぶり８回目、皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会に５年ぶり２回目の出場を果たしました。高校、大学そろっての全国大会出場は４年ぶり４回目となりました。

第101回全国高校サッカー選手権大会 東邦は履正社に惜敗

履正社を果敢に攻め続ける東邦（12月29日、浦和駒場スタジアムで）

第101回全国高校サッカー選手権大会で、東邦高校は12月29日に行われた１回戦で、大阪府代表の履正社高校と対戦しましたが、惜しくも１－４で敗れました。

試合は浦和駒場スタジアム（埼玉県さいたま市）で12時５分キックオフ。前半19分で１点を許した東邦は、30分すぎ、与えたPKをGK御子柴里城（３年）が右に跳んではじき出して２点目を気迫で阻止、東邦応援席は「勝負はこれから」と、反撃に期待する歓喜の拍手に包まれました。

しかし、前半２点、後半２点を奪われ試合は０－４で80分を終了。80分過ぎ、２年生でゲームキャプテンの朴勢己選手が執念のゴールを決め１－４としましたが及びませんでした。

応援団席では、東邦高校をこの日午前５時前にバス６台で出発して繰り出した300人を始め、榊直樹理事長、藤本紀子校長、東邦会関東支部の卒業生らも熱い応援を続けました。

石渡靖之監督の話

４年ぶりの全国高校サッカー選手権大会出場を果たし、何とか初戦突破を狙いチーム一丸で戦いましたが、相手も強く、誠に残念な結果に終わってしまいました。しかし、レギュラーの半数が１・２年生ということもあり、ロスタイムに奪った１得点に来年度以降の光明が見えました。この誌面をお借りし、多くの皆さんに応援頂きましたことを改めて感謝申し上げます。

第31回全日本大学女子サッカー選手権大会 愛知東邦大は追大に惜敗

追手門学院大を追撃する愛知東邦大（12月24日、第１球技場で）

第31回全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）は12月24日に三木総合防災公園（兵庫県三木市）で開幕。８回目出場の愛知東邦大学（東海第２代表）は開幕初日の１回戦第１試合で追手門学院大学（関西第３代表）と対戦、０－１で敗れました。

３年ぶりのインカレ本戦に臨んだ愛知東邦大は０－０で折り返した後半11分、痛恨の失点を許し、懸命の追撃も及びませんでした。

米澤好騎監督の話

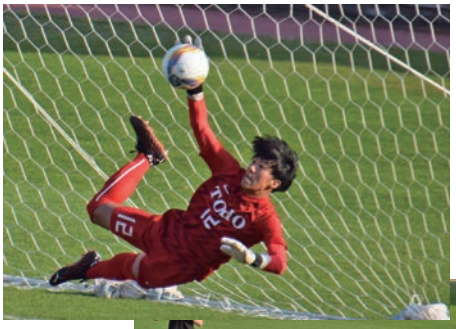
皇后杯、インカレと全国大会に2つ出場が出来ました。

この２年間はコロナもあり、インカレの出場も途絶え、難しかった中、学生達はよく頑張ってくれました。

インカレは全く満足が出来ない内容で終わってしまいましたが、全国大会という舞台での経験値は計り知れないものがあります。来シーズンは今シーズンのチーム以上を目指し、先輩たちの悔しさを晴らします。東邦らしさを忘れずに前を向いて階段を上っていきます。

高校サッカー部　４年ぶり
７回目の全国大会出場

愛知県大会で優勝を決めたサッカー部（11月12日）



東海学園高校との決勝戦はＰＫ戦５－４で勝利

第101回全国高校サッカー選手権大会愛知県大会決勝戦は11月12日、名古屋市港区のＣＳアセット港サッカー場で行われ、東邦高校が東海学園高校をＰＫ戦で制し７回目優勝に輝きました。

表彰式で選手たちは優勝旗、優勝杯、表彰状を高々と掲げて喜びを爆発させました。榊直樹理事長、藤本紀子校長も応援席からピッチに移動し学園創立100周年を飾る偉業を成し遂げた選手たちを祝福しました。

大学、高校サッカー部の総監督で、県大会では監督として指揮を執った石渡靖之監督は「ボールを支配される時間が長い試合でしたが、最後まで頑張って前に出ることができました。延長でも最初に点を取られ、悪い流れでしたが、選手たちが戦術を理解し１点取ってくれました。コロナ禍という厳しい環境の中でしたが、大きく成長したチームなので、何とかして全国大会に連れていきたいという思いで取り組んできました」と語りました。

大学女子サッカー部は３年ぶり
８回目インカレ出場

３年ぶりインカレ出場を決めた女子サッカー部（10月23日）

愛知東邦大学女子サッカー部は10月23日に行われた第31回全日本大学女子サッカー選手権大会東海予選で、名古屋経済大学に３－０で勝利し、３年ぶり８回目インカレ出場を決めました。東海第１代表をかけて10月30日に行われた静岡産業大との決勝戦では惜しくも０－２で敗れました。

３年ぶりインカレ出場を決めた選手たちは名古屋学院大グラウンドで喜びを爆発させました。後半15分、２点目の弾丸シュートを決めた沖田有由選手（２年）は、「自分にとってインカレは初出場なのでもちろんうれしいですが、チームの目標は日本一です」と本戦を見据えていました。

２度目の皇后杯大会は初戦で無念のPK負け

女子サッカー部は皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会にも東海第３代表として2017年以来２度目の出場を果たしました。11月26日に三重県伊賀市の上野運動公園競技場で行われた１回戦で、関東第３代表のSEISA OSAレイア湘南FC（S湘南）と対戦し、１－１、PK戦４－５で惜しくも敗れました。

S湘南は早稲田大、東洋大、神奈川大、筑波大などが参加する2022年度の第28回関東女子サッカーリーグ１部優勝チーム。愛知東邦大は立ち上がりに失点を許したものの後半に追いつき１－１で30分の延長戦に。延長戦ももつれ、愛知東邦大へのゴール判定がオフサイド判定で取り消される場面もあるなど接戦となりました。結局PK戦に持ち込まれ、愛知東邦大の健闘は及びませんでした。

高校／行事・クラブ活動

学園祭が戻ってきた

生徒会顧問　水谷　陽子

今年度の学園祭は、概ねコロナ禍以前の日程ですすめることができました。

特に文化祭は、３年ぶりに保護者に公開することができた点が大きな成果であったと感じています。模擬店を企画できなかったため、半日での開催となってしまったことは残念でしたが、部活動の発表、多目的練習場などステージでの企画も、コロナの感染に留意しながら、３年ぶりに行うことができました。

生徒会本部企画では､｢防災｣に目を向け、東日本大震災の際に石巻で実際に避難所運営を行った齋藤幸男先生の講演を聞き、高校が避難所となった際の、生徒会役員としての心構えを発表しました。また指定避難所となっている本校の備蓄品や、マニュアルを確認しました。

学園祭総務本部企画では､｢もし○○が１クラスだったら…｣というタイトルのもと、さまざまな社会問題を、１クラス単位に縮小することで、身近に感じてもらうという発表を企画しました。

クラス単位でも、国際探究コースがSDGsに目を向けた社会性のある企画を、美術科がライブペインティング、文理特進コースは実際に科学館へ調査に行ってプラネタリウムを作成するなど、科やコースの特性を活かした企画が行われ、目をひきました。

PTAのバルーンアートのフォトスポットや、バザー企画、趣味の作品展などもとても盛況でした。

文化祭クラス費の残金の一部は、平和カンパ、食支援を行っているチャリティー団体に寄付しました。防災支援団体、１億円募金等へも寄付をする予定です。

体育祭は全クラスを午前と午後に分け、二部制にして行いました。伝統である１年生の花笠も行うことができました。３年生ＨＲ委員からの発案で、団ごとの縦段幕を作成、テニスコートフェンスに掲げた点は、団ごとの団結を強めることになったと思います。

本年度の学園祭を終えるにあたって、ご協力いただきました関係各所の皆様には、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

国際探究コース｢シンガポール研修旅行｣を振り返って

2年普通科国際探究コース担任　古田　知子

11月9日(水)～13日(日)、東邦高校では初となる｢シンガポール研修旅行｣に行ってきました。“アイデア”と“技術”の国・シンガポールで、多くの学びと交流を得ることができました。

メインプログラムであるシンガポール国立大学での｢模擬国連｣では、現地学生がコーディネーターとなり、各国の立場で｢温暖化｣にどう取り組むか､All Englishで議論を行いました。議論にはだいぶ慣れている生徒たちも、その場で、自分の伝えたいことを英語で発言するということは、脳みそをずっとフル回転で使っているような、大変な経験だったと思います。それでも､｢拙い英語でも頑張って前に出て行くクラスメイトがかっこよかった｣と感想文に寄せられるように、本当によく食らいついて頑張っていました。

模擬国連以外にも、スタートアップ企業視察、マリーナベイサンズでのリバークルーズと美しいスペクトラショー、シンガポールの街を散策する班別研修など、大変充実した研修でした。たまたま一緒に施設見学をしたタイの高校生たちと自然な交流が生まれたことも、素敵な思い出です。一方、新型コロナウイルス

感染症への対応・対策という点では、多くの課題・教訓がありました。コロナ禍での研修旅行は次年度以降も続いていきます。今年度の経験をしっかり生かしていきたいと思います。

新たな100年に新たなクラブを
～女子サッカー同好会新設～

顧問　安井　郁真

2022年６月、東邦高校に何十年ぶりかで新しい同好会が設立されました。

４月の説明会に５人が参加。その中の２人がその後、昼休みに各クラスで呼びかけたり、下校時に正門に立ってビラを配るなどして、５月中頃にはメンバーは７人まで増え、何とか設立に必要な一定人数を集めることができました。 練習に必要なボールなどの道具は、愛知東邦大学女子サッカー部の御厚意により、譲って頂きました。現在は、週４日、テニスコート脇の壁当てスペースで練習をしております。

我々女子サッカー同好会は活動理念として三つの柱を掲げています。

１つめは、サッカーを通じて、自分に秘められた可能性に挑戦し、心身共に成長して、東邦高校での３年間をより充実した学校生活にしていくこと。

２つめは、仲間と共に力を合わせることで、１人では成し遂げられない困難な課題に挑戦し、打ち克っていくこと。

３つめは、この活動を通じて身に付けた力を、チームや自分以外の誰かのために発揮し、積極的に他者や社会へ貢献していくこと。

この３つの柱を大事にし、「真に信頼して事を任せうる人格」を身に付けることを目的として活動していきます。感謝の気持ちを忘れずに、ゆくゆくは東邦高校を代表するクラブの一つとなっていけるように、学校と共に、生徒と共に、成長し続けて、次なる100年に新たな歴史を作っていきたいと思っています。

開設８年目の人間健康コース
２度目の野球、サッカー同時全国出場

硬式野球部とサッカー部志望者を受け入れて2015年度に開設された東邦高校普通科人間健康コースが2022年度、２度目の野球、サッカー同時全国大会出場を果たしました。スポーツの魅力や心身の健康への関心が高まるなか、「全国レベルアスリート育成を目指す専門性の高いコース」の開設目標に応える2018年度に続く快挙となりました。

硬式野球部は2022年秋の第75回秋季東海地区高校野球大会で2018年以来４年ぶり12回目の優勝に輝きました。11月の第53回明治神宮野球大会では１回戦で大阪桐蔭高校に敗退しましたが春の第95回選抜高校野球大会への出場が確実視されています。サッカー部も11月の第101回全国高校サッカー選手権大会愛知県大会で優勝し、年末の全国大会出場を果たしました。

硬式野球部が秋季東海大会を目指した愛知県大会では、サッカー部員たちも球場に足を運び、クラスメイトたちを応援しました。そして、サッカー部が全国大会出場を決めた第101回全国高校サッカー選手権大会愛知県大会では硬式野球部員たちが応援に回りました。11月12日、名古屋市港区のＣＳアセット港サッカー場での決勝戦では、２、３年生を中心には40人近い硬式野球部員たちが応援に繰り出しました。

延長戦も１－１で決着がつかずPK戦へ。東邦応援席では控えのサッカー部員たちと硬式野球部員たちが、「夢をつかめ」の横断幕を前にスクラムを組みました。熱気のこもった応援を背に、東邦は５－４でPK戦を制し、４年ぶり７回目の優勝を決めました。

硬式野球部、サッカー部員たちが学ぶ人間健康コース
（1年N組の「朝読」）

スポーツの厳しさを共有し合う

人間健康コース２年生担任の木下達生教諭（硬式野球部コーチ）は「クラスでは、“一緒に全国大会に行こう”がモットー。１年間で見れば、サッカー部員たちが野球部の応援に出向く機会が多いので、サッカー県大会決勝戦での応援は、野球部員たちには、お返しは当然という意識だったのでしょう」と言います。

東邦高校では2015年度から商業科が募集を停止し、2017年３月に硬式野球部の藤嶋健人選手ら最後の商業科３年生が卒業したことで、2017年度からは硬式野球部の全員とサッカー部員の大半が人間健康コースで学ぶことになりました。翌2018年度、サッカー部は第97回愛知県大会で優勝し全国大会に出場。石川昂弥キャプテン率いる硬式野球部も東海大会で優勝し、第49回明治神宮野球大会に出場、翌春の甲子園では「平成最後の優勝」に輝きました。2022年度は人間健康コースにとって、2018年度に次ぐ２度目の野球、サッカー同時全国大会出場となりました。

2022年度の人間健康コース在籍者は１年生40人（野球25人、サッカー15人）、２年生32人（野球25人、サッカー７人）、３年生37人（野球24人、サッカー13人）。普通科の他コースとの違いは、週３日（火、木、金曜日）の６限目が「セレクト授業」として、部活動にあてられ、単位認定される点です。硬式野球部員たちは午後２時20分に５限授業が終わると直ちにバスで東郷グラウンドに移動し練習に打ち込みます。サッカー部の練習は移動時間がかからない校庭グラウンドで行われるため、７限授業終了後から練習に合流する普通科部員もいます。

サッカー部と硬式野球部の生徒たちが机を並べて学ぶことの意義について木下教諭は、「スポーツの厳しさを全員が共有できることではないか」と指摘します。「サッカーは限られた時間の中で、止まることがなく、状況把握、決断力が求められます。野球は、いったん止まって考える、よく考えてから行動するというのが特性。同じクラスで、お互いに足りない部分、特長とかを刺激し合っていると思います」とも言います。

「ロイロノート」に投稿されたスポーツ記者報告

「スポーツ記者」の週間報告で情報共有

２年生クラスでは前期、後期ともサッカー部３人、硬式野球部３人の「スポーツ記者」係が選ばれ、１週間ごとに両部の活動報告が行われています。木下教諭が担当するホームルームや総合探究の授業の中で10分～20分、プロジェクター画面を使ってのプレゼン報告です。

2022年度からは、プレゼン後、東邦高校が導入している学習端末アプリ「ロイロノート」に、発表した写真、動画データを落とし込んでいます。「人間健康コース」を検索することで、校内に限りますが、全校生徒と教職員が、硬式野球部とサッカー部の活動についての情報を共有できるようになりました。木下教諭は、「全校的な情報共有が、全国レベルを追い続ける人間健康コースの生徒たちの背中をさらに押す力となってくれれば」と期待しています。

PK戦を前にスクラムを組む硬式野球部員とサッカー部員（11月12日）

100周年飾る31回目春の甲子園当確
東邦高校が４年ぶり12回目東海大会優勝

甲子園切符につながる東海大会優勝を決めた硬式野球部（草薙球場で）

東邦高校は10月の第75回秋季東海地区高校野球大会で2018年以来４年ぶり12回目の優勝に輝きました。３月18日に開幕する第95回選抜高校野球大会の出場校を決める選抜選考委員会は１月27日に開催されますが、東海地区からの出場枠は３で東邦高校の４年ぶり31回目の出場はほぼ確実と見られ、学園100周年での吉報が待たれます。

第75回秋季東海地区高校野球大会で東邦高校は、初戦で海星高校（三重）を11－１、準決勝で大垣日大高校（岐阜）を７－４、決勝で常葉大菊川高校（静岡）を７－２で破り優勝を決めました。

準決勝と決勝は静岡市の草薙球場で行われました。準決勝で対戦した大垣日大の監督は元東邦高校監督でもある阪口慶三監督。東邦は０－２で迎えた５回に３－２と逆転に成功。６回にも１点を追加、７回にはさらに３点を追加して試合の流れを大きく引き寄せ、９回に２点の追い上げを許しましたが、７－４で大垣日大を振り切りました。

監督就任４年目で初の甲子園出場切符を大きくたぐりよせた山田祐輔監督は、試合終了後、スタンドに向かって思わず笑顔の万歳ポーズ。阪口監督との対決については「私は阪口監督の教え子ではありませんが、東邦野球の歴史を創られた先生なので今の東邦の野球をしっかり見せて行きたいという思いはありました」と語りました。

決勝戦は10月30日に行われました。東邦は１回に１点、４回に３点を奪い４－０と試合の主導権を握り15安打を放ち７－２で試合を決めました。８回まで投げた宮國凌空投手、９回にライト守備からマウンドに上がった岡本昇磨投手が常葉大菊川打線を４安打に抑え込みました。

閉会式では優勝旗を手にしたキャプテンの石川瑛貴選手の東邦高校と、準優勝の常葉大菊川高校が内野グラウンドを一周。榊直樹理事長とともに全員で記念撮影を行った後、選手たちは山田祐輔監督を胴上げし喜びを爆発させました。

山田監督は「毎日の練習で細かいことを徹底してやってきたチーム力が粘り強さとなり、優勝につながったと思います。夏は甲子園までもう一歩のところで及びませんでしたが、新チームでは経験のある選手が減った分、少ないチャンスをものにし、守備は最少失点に抑える野球をやってきました。接戦をものにすることで成長できたかなと思います。選手たちは本当によくやってくれました」と選手たちの健闘をたたえました。

東邦高校は各地区優勝校が出場する第53回明治神宮野球大会に出場しましたが、11月18日の開幕初戦で、近畿代表の大阪桐蔭高校に１－９で敗れました。

草薙球場での閉会式で石川主将を先頭に行進する東邦高校

大垣日大高校を破り東海大会決勝進出を決め万歳する山田監督

「学生第一」掲げS棟１階に「スチューデントコモンズ」誕生

Ｓ棟１階スペースが「Student Commons」（スチューデントコモンズ、略称ＳＣ）」として生まれ変わり、10月14日、オープニングセレモニーが行われました。

オープニングセレモニーであいさつする鵜飼学長（10月14日）

Ｓ棟１階には４センター（地域・産学連携センター、キャリア支援センター、国際交流センター、保健・学生相談センター）が置かれており、これまで４センターを中心に運用されてきました。

誕生したＳＣのコンセプトは「Student First」（学生第一）。４センターの共通する学生サービスのコンセプトとして、①デジタルでの情報発信②学生の自発的な情報収集③カウンセリング④アクションが可能となる行動動線――を組み立てることにより、学生の自発的な行動を促しながら、学生サービスの質向上を目指します。保健・学生相談センターのスペースには、学生たちから設置を求める声が多かった“個室”も７ブース設けられました。

昼休みを利用して行われたオープニングセレモニーでは鵜飼裕之学長がＳＣのコンセプトを説明しました。鵜飼学長は「３年前に本学に赴任した時からこの空間がもったいないと思っていました。皆さんが求めているものを自分で探し、アプローチしていく姿勢をこの空間で作っていきたいと思います。自由に集まって語らって、創り出していくそんな空間にしてください」と集まった学生たちに訴えました。

榊直樹理事長も「学部、学年、いろんなことを超えてコミュニケーションを創りだし存分に使ってください」と祝辞を述べました。セレモニーは吹奏楽団によるディズニーソング「ジャンボリミッキー」の演奏で締めくくられました。

ＳＣでは国際交流センター運営委員会が12月から外国出身の先生方が分かりやすい英語で自己紹介する「MEET THE TEACHERS！」やクリスマスイベントを開催。12月14日には学生会と鵜飼学長らによる「学長ミーティング」も開催されました。

昼休みを利用したSCでの「MEET THE TEACHERS！」（12月1日）

活発な意見交換が行われた「学長ミーティング」（12月14日）

大学機関別認証評価の実地調査が終わりました

2004年度から学校教育法によりすべての大学、短大、高等専門学校は７年に一度、文部科学大臣が認定する認証評価機関により外部評価を受けることが義務となりました。これが認証評価制度です。

本学は2016年度に受審しており、定められている期限の１年前の本年度、独立行政法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審しました。

受審のための準備は昨年度から始まり、昨年６月末日には「自己点検評価報告書」及び必要なエビデンスを提出、その後､「自己点検評価報告書」の内容に対する追加質問や検証に資料の請求があった後、10月25・26日(火・水)の両日、評価チームの方々が本学に来学、評価項目に沿った質疑、学生面談、施設見学を行いました。

評価結果につきましては、３月中に日本高等教育評価機構から通知される予定です。

３年ぶり対面で大学祭

大学祭実行委員長　紙屋　美咲(人間健康学部４年)

昨年は３年ぶりに対面での大学祭を行いました。

私は４年生のため、１年生の時に、先輩たちのもとで分からないことだらけなりに、必死に準備した経験しかありませんでした。４年生となって引っ張っていく立場になった今年も、その頃からの情報のアップデートはほとんどなく、何をどこから始めたら良いのか不安でいっぱいでした。それでもなんとか2019年の大学祭を参考に､また目標にして準備していきました。

対面での大学祭の経験者がほとんどいない中での開催だったため、準備開始の時から苦労の連続でした。そもそも１～３年生は対面での大学祭を見たことがないところから始まったため、対面での大学祭のイメージを持ってもらうところから準備は始まりました。準備を進めて行けば行くほど分からないことも多々あり、教職員の方々にもたくさん支えて頂きました。また、現在もコロナ禍ということには変わりないため、準備期間中にも突然方針変更したりなど紆余曲折もありました。しかしなんとか当日を迎え、たくさんの来場者様のお顔を見ることができ、ホッとしました。

準備だけでなく当日も、様々なトラブル等あったにもかかわらず、無事成功を収めることができました。また鵜飼学長をはじめたくさんの方々に「大学祭良かったよ。頑張ったね」等のお言葉を頂き本当にここまで頑張ってきて良かったととても嬉しく思います。

今年以降の大学祭では、昨年の経験を踏まえ、より多くのお客様に来ていただけるよう、また在学生の参加が増えるよう試行錯誤していきたいと思います。

改めて､この大学祭の開催に伴い､様々な形で関わってくださった皆様のおかげでこうして無事対面形式での大学祭ができたと思っております。本当にありがとうございました。

女子バスケットボール部2部リーグ昇格!!

監督　山村　伸

第93回東海学生バスケットボールリーグ戦において本学女子バスケットボール部が５戦全勝で３部リーグ優勝を決めました。個人賞でも人間健康学部３年の、神谷明日香（修文女子高）が最優秀選手賞を受賞。同１年の磯部莉子（愛知商業高）も優秀選手賞と３ポイント王を受賞しました。また、10月22、23日に静岡市草薙総合運動場体育館（このはなアリーナ）で開催された、２部リーグ６位の岐阜大学との入替戦（２試合制）では、２連勝で見事２部リーグ昇格を果たしました。

◇**１試合目**（10／22）

愛知東邦大学81｛19-16.19-12.23-14.20-20｝62岐阜大学

◇**２試合目**（10／23）

愛知東邦大学95｛22-14.32-21.19-13.22-14｝62岐阜大学

神谷明日香キャプテン（人間健康学部３年）**の話**

昨年のリーグ戦ではコロナの影響で思ったように練習することができず、先輩方と「２部昇格」の目標を達成することができず悔しい思いをしました。昨年は自分がキャプテンになり、初めは不安でいっぱいでしたが、同級生と目標を口にして練習することで徐々に自信がついて行きました。また、頼れる後輩達も加入し試合ではチームで心を一つにして勝ち進むことができました。今回はメンバー全員で勝ち取った勝利だと思います。

改めてメンバー、部長、監督、先輩方、応援してくださった方々に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。これからも努力を惜しむことなく頑張っていきたいと思っています、応援よろしくお願いします。

フィギュアスケート部
丹羽さんがインカレ出場

顧問　河合　厚志

2022年に創部５年を迎えサークルから「部」として新しくスタートを切った愛知東邦大学フィギュアスケート部、部員も設立当初は１人でしたが現在は３人（全員プレーヤー）となりました。

そのような中で、２年生の丹羽萌々音選手が見事インカレ出場を決めました！

新年明けてからすぐの2023年１月５日からの日本学生氷上競技連盟全国大会（苫小牧で開催）へ出場しました。

結果は、やはり全国の壁は厚く、表彰台というわけにはいきませんでしたが、他の部員も丹羽さんの全国出場に刺激され、次回は３人そろってのインカレ出場へと燃えています。

今後ともぜひ温かい目で見守り、応援を頂きますようお願い申し上げます。

「時は今」、剣道サークルから剣道部へ

監督　櫻井　秀樹

私が愛知東邦大学の教職支援センターの非常勤職員になってから、５年目を迎える。たまたまその年に東邦高校の剣道部の教え子の入学がきっかけで、２人の在校生とともにサークル活動を立ち上げスタートさせた。稽古会での親睦、試合への参加や昇段審査、地域貢献を目的とした。時に他大学の学生や東邦高校卒の社会人も稽古に参加し、多い時で10名ほどの盛況な稽古会の日もあった。

この５年間の成果・実績といえば、東邦スイミングとタイアップして剣道教室を開催し地域貢献に一役かったり、稽古会で鍛えあったりして、警察官や、他大学生の婦人警官や市役所合格といった人材も輩出した。

ただ心残りは試合に一度も参加していないことである。コロナの影響で大会がない状態が今も続いている。

縁あって来年度、実力のある東邦高校の剣道部員が入学予定である。東海学連加盟も視野に入れながら、剣道部への昇格を申請中である。試合にも出ることが可能となる。

私は華やかなスポーツクラブが盛んなこの大学の中に、剣道という古風な武道も大学の懐の深さや味わいがあるのではないかと思う。

今、種をまく。まさに「時は今」である。

男子サッカー部、来季こそ１部昇格を誓う

男子サッカー部が12月14日、榊直樹理事長と鵜飼裕之学長に、2022年度シーズンの終了報告を行いました。

今シーズンは東海学生サッカー連盟２部リーグで惜しくも３位。今シーズン主将を務めた人間健康学部４年の鵜飼陸哉さんは、「入学した頃と今とでは、チームのレベルが全然違う。今年は１部昇格の大きなチャンスだったので本当に残念だった。力は確実についているので、後輩にその夢を託したい」と語りました。

来シーズンの主将は人間健康学部１年の山﨑楽久（がく）さん。「１部に上がるということは、１部でやっていく力がないといけないと思っている。技術面以前に、普段から戦う気持ちを持つ選手を一人でも増やせるよう、しっかり引っ張っていきたい」と抱負を述べました。

榊理事長からは、「物事が叶わなかったというのは、次への大きなエネルギーになる。目指すものを言葉にし、思い返すことで妥協しなくなり、結果につながる」とのエールが、鵜飼学長からは、鵜飼主将へのねぎらいとともに、山﨑新主将へ「チームの力をどう引き上げていくか、皆で考えながら頑張ってほしい」と来シーズンへの激励の言葉がありました。

１部リーグでのシーズンを終えて

硬式野球部主務　真柄　直人

硬式野球部は2001年に入学した大学１期生によって創部されました。邦友会の皆様方をはじめとして、大学関係者の皆様から絶大なるご支援、ご声援をいただきました。硬式野球部一同感謝申し上げます。

2022年春季リーグ戦において、硬式野球部の悲願であった愛知学生連盟１部リーグへの昇格を果たすことができました。１部昇格後初めての秋季リーグ戦の結果は４勝８敗５位で終えました。第１週の名城大学戦、第２週の愛知工業大学戦では、レベルの高い相手投手を打ち崩すことができず、勝点を落としてしまう厳しいスタートとなりましたが、後がなくなった第３週の愛知学院大学戦では、相手投手を攻略し愛知東邦大学の歴史を刻む初の勝点を挙げることができました。第４週、第５週では善戦したものの、惜しくも勝点を挙げることはできず、勝点１の５位と悔しいシーズンとなりました。榊理事長、鵜飼学長をはじめ多くの大学関係者の方に球場に直接足を運んでいただき、改めて皆様方に支えていただいていることを実感し、より一層結果を残さなければいけないと考えさせられるシーズンでした。

2023年１部春季リーグ戦は、１部リーグを経験した選手も多く、目標である全日本大学野球選手権大会に出場できますよう、日々の練習に取り組んでいきたいと思います。これまで支えてくださった皆様方に、結果を出し、学園100周年という節目に花を飾れるよう頑張りますので、今後ともご声援のほどよろしくお願いいたします。

フレンズ・TOHO2023年の行事予定について

今年度のフレンズ・TOHOの行事につきましては、６月10日(金)に２年ぶりとなる対面形式での総会を開催し、ご参加いただいた皆様には佐高信氏による講演を聴いていただくことができました。

今後の行事につきましても、本会の活動の趣旨を重視し会員の皆様に還元できるものを開催してゆきたいと考えております。

今後、以下の行事を予定しております、会員の皆様におかれましては是非ともご参加いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

●講演会と名刺交換会

日時：2023年２月10日(金)13：30から

場所：名古屋ガーデンパレス

講演会講師：株式会社アビリティトレーニング

代表取締役　木下　晴弘氏

●年次総会

日時：2023年６月23日(金)

場所：名古屋東急ホテル

講演会講師：慶応義塾大学大学院

教授　前野　隆司氏

東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は本年2023年に創立100周年を迎えます。更なる100年に向けて更にはばたく意思を込めて、様々な100周年事業を実施してまいります。100周年事業の内容につきましては、今後、公式Webページ等様々な方法で皆様にお知らせします。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せいただきたくお願い申し上げる次第であります。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えてゆける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願いいたします。

◇募金目標額　５億円

◇募金の主な使途

教育環境整備、施設設備の充実、学生・生徒の教育活動への支援

◇お申込期間・金額

【東邦学園創立100周年記念募金】

2021年11月から2026年３月まで

個人：１口　５千円、法人：１口　10万円

複数口のご協力をお願い致します(１口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。

【百年レンガ募金】

※原則、高校同窓生・在校生対象

2021年11月から2023年６月末日まで

個人：１口　５万円

アルファベットによるご芳名をレンガに刻印、高校グラウンドの周囲に設置させていただきます。

◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申込み下さい。

募金に関する学園Webページ：

https://www.toho-gakuen.jp/donation